

《題目》CEO でも飛行機はエコミークラス

私が最も長く働いていたバイオ・ラッド社(Bio-Rad Laboratories)の創業者は、デイビッド・シュワーツ氏で、1954年に自宅のガレージで奥様と2人で始められたのですが、今年で65年、欧州・アジア・南米だけでなく、アフリカにも子会社のある、世界に冠たるバイオテクノロジー研究支援製品と臨床診断薬を販売するWorldwide Companyになりました。私が同社に入社したのは、1988年ですから、創業後34年が経過しており、当然のことながら、創業時の苦労話などを、同氏から聞いたこともありませんが、日本法人の同僚やUS本社(サンフランシスコ近郊)に行った際に、USの友人から聞いたのは、クロマトの樹脂を精製し、カリフォルニア大学バークレイ校(カリフォルニア大学の本校、ちなみにUCLAは同校のロサンゼルス校です)に、幾度となく足を運び、売り歩いたところから始まったと聞いています。数年後、デイブの片腕ともなるジム・ベネット氏が入社し、苦労を共にする中で、ジムに対する信頼は揺ぎ無いものとなり、彼は生涯同社の副社長として、デイブ氏を支えていたことは、私も実体験として知っております。

今でも覚えています、仕事の話をしている時、重大なトラブルが発生した時のデイブとジムは、それは厳しいものであり、そのような時、US本社の従業員は、陰で『デイブ・タイフーン来襲』とか『ベネット・タイフーン来襲』とか言っていたのを覚えています。しかし、対処策などを話す会議などが終わった後は、普段の柔和な表情に戻り、『最大限の努力で解決してくれ』と関係者に話していたのを覚えています。

日本の子会社である日本バイオ・ラッド ラボラトリーズに、研究開発部に入社した私は、幸せなことに、彼らが来日した際には、度々昼食や夕食に誘って頂き、その為、US本社に行っても気軽に挨拶に行くことができ、デイブとジムと気安く話している私を見て、US本社の幹部クラスの対応が変わり、会議で非常に発言し易くなりました。その中で、デイブが彼のポリシーとして、下記のことを言っていたのを覚えています。

The employee of Bio-Rad is not the employee. The employee of Bio-Rad is my family.
社員を信じ、優れた社員や熟練社員が長く働いてくれること、そして新しい社員が様々な改善を行ってくれることが、会社の発展の最重要ポイントであるとのこと。日本の一つの会社に定年まで勤めるのに似ていますが、大きく異なるのは、各社員の能力を的確に判断し、能力を最大限に発揮できる職種に就けることです。その為には、給与面での満足と勤務評価の妥当性が重要だと感じました。当然、過剰な給与や甘い評価は、社員の甘えを呼び、会社の成長にはマイナスです。この辺が難しいのですが、この言葉を発している時の彼の表情は、真剣で熱く、心から出ている言葉であると感じました。

このような信念を持っているデイブは、世界中何処に行く時でも、飛行機ではエコミークラスでした。ビジネスやファーストクラスに乗るのは、世界中の現場で働いている社員が働いてあげてくれたお金(利益)を無駄にすることだと言う考えなのです。ホテルも決して高級ホテルではありません。しかし、毎年、年初に世界中の子会社の社員を集めて開く『Kick Off Meeting』は、リッツカールトンなどの一流ホテルで行われました。トップのデイブがエコミーですから、各国の子会社の社長も当然、US本社に行くのにも、何処に行くのもエコミーです。すべてに対して、必要以上のお金は掛けない彼の信条は徹底しており、彼のオフィスも決して広くなく、使っている家具類も、『豪華だな』と思うようなものは一つもありませんでした。

本社の社員達は『デイブのケチ』と陰口を言っていました、会社の成長の為には、そのようにして貯めたお金を惜しげもなく使う。将来の為に必要だと判断した会社は、数百億・数千億で、M&Aしたのを覚えています。お金は、使うべき時に使う。それが彼の信念だったと思います。同社がビリオンダラーカンパニーとなり、デイブから息子のノーマンになっている現在、変わっているかも知れませんが、少なくとも、彼の会社で働けたことを、今でも感謝しています。